

令和5年度 春日山原始林・奈良公園フィールドワーク

第2回 概要報告

奈良教育大学 ESD・SDGs センター研究員 杉山 拓次

実施日：2023年6月24日（土）9:00～12:00

参加者：8名（学生：7名 教職員：杉山、加藤）

■実施場所：春日山原始林

■第2回 雨の日の森を歩く（春日山遊歩道北部）

2023年6月24日（土）9:00～12:00

概要：普段は訪れることのない雨の森の様子を体感し、森と水の関係について考えます。

9:00 春日大社国宝殿前集合

9:10 挨拶・フィールドワークスタート

9:20 春日大社 龍王社にて春日山原始林の解説

9:30 水谷神社・イブキ・水谷川等の解説

10:00 春日山遊歩道（北部）フジ・天然記念物石碑・洞の仏頭石・クモタケ・ナギ等解説

11:00 五感の体操・森で寝転ぶ

11:30 折り返し

12:10 遊歩道入口にて解散

■概要報告

第2回目となる春日山原始林フィールドワークのテーマは「雨の森」。残念ながら当日は雨ではなく、曇り空。それでも前日まで雨模様が続いていたため、梅雨時期の森を体感することができた。今回もほとんどが県外出身の1回生。コースが短いこともあり、通常の解説ポイント以外のその日見ることのできる動植物を中心にみつめていった。第1回のコースをより短い距離で歩くが、1ヶ月の違いでみることのできる動植物が変化している。

森と水の関係については、春日大社の龍王社や水谷神社の解説版を活用し、春日山原始林が水源の森であることを解説した。一方で、原始林内では6月初旬の豪雨の影響で崩落箇所などが見られたため、本来の水源地としての機能が衰えていることも確認できた。

動植物等については、毎年6月～7月に発生する「クモタケ」というキノコや、青く巨大な「シーボルトミミズ」など、なかなか見ることのない生き物を観察することができた。

キビタキやオオルリなどの囀りがよく聞こえていたので、五感を使った体験においてもゆっくりと自然に身を委ねるような形で体験を促し、10分程度であるが森で寝転ぶ体験も行った。

初めて参加した学生にとっては、自然への関心が高まるような感想等が得られた。

今後も春日山のフィールドを頭と体で体感する機会としたい。

■写真



春日大社の説明



水谷神社を解説



モミとナギの手触りを比較する



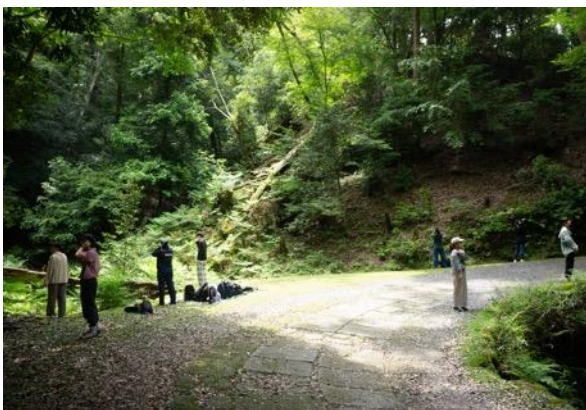
ムラサキシキブの解説



手前の土嚢は、6月豪雨の際に崩落



春日山が岩盤で構成され土壌が少ないのを確認



五感の体操（みみをすます）



森で寝転ぶ